

# 中国とアフリカの歴史的係わり

## ■ イデオロギーによる支援(1949年～1970年代後半)

- ・イデオロギー面から、アフリカの植民地闘争を支援
- ・アフリカ諸国が独立した後も、台湾との国家承認競争や、中ソ対立を背景にアフリカ諸国への支援を継続

➡ ともに「(列強から)搾取された経験を持つ」との連帯感

- ・タンザン鉄道(1976年完成、ザンビア～タンザニア・ダルエルサーラム全長1860km)  
--中国とアフリカの友好のシンボル



タンザン鉄道の車窓から



1964年1月周总理访问加纳时拜会恩克鲁玛总统。

1964年1月、周恩来総理ガーナ訪問



1964年1月、周恩来访问马里时，受到人民群众的热烈欢迎。左一为凯塔总统。

1964年1月、周恩来総理マリ訪問

# TICAD VIについて

(2016年8月27-28日／於ケニアアッタ国際会議場)

## ■ TICADについて～対アフリカ外交の基軸

- ・1993年に日本が立ち上げたアフリカ開発をテーマとする首脳級会合。TICAD Vまでは5年に1度、日本で開催。
- ・今回より、3年毎にア・日で持ち回り開催決定。(次回は2019年、神戸開催を予定)
- ・日本主導。国連、世銀、UNDP、アフリカ連合委員会(AUC)が共催
- ・20年以上の歴史を有し、国際社会のアフリカ開発フォーラムの先駆的存在。

## ■ TICAD VIについて

- ・アフリカのオーナーシップに呼応し、初めてアフリカ・ケニアで開催
- ・TICAD V開催時は、資源高により「援助から投資へ」のスタンス。その後。資源価格低迷、感染症流行、暴力的過激主義・テロの拡大を受け、TICAD VIでは「援助も投資も」のスタンスに変更。
- ・TICAD V、TICAD VI以降、民間企業のビジネス面での関与・協力を期待高まる
- ・サイドイベントも含め、約1.1万人、内、約3000名の日本人がTICAD VIに参加
- ・経団連／榊原会長始め、民間企業約70社のトップクラス経営者が多数参加
- ・アフリカ53カ国(ガボンのみ不参加)、35カ国の首脳参加、26カ国とバイ会談。

# 変わる中国のアフリカ取組み

## ～「友好」から「Win-Winの関係」へ

### ■ アフリカにおける資源権益確保強化(1990年代中盤～)

【背景】中国経済の飛躍的发展と、石油純輸入国への転換(1993年)

・江澤民国家主席(当時)のアフリカ6ヶ国訪問(1996年)

・中国国有企業のアフリカにおける資源権益取得活発化

＊ 1995年スーダン油田権益取得(CNPC)

＊ 1999年ザンビア銅鉱山進出(有色金属工業総公司)etc・・・

### ■ 「走出去」(Go Out Policy)戦略への呼応(2002年～)

【背景】「資源の不足」と「中国内の過剰」(投資・生産・外準)が背景

・資源を調達すると同時に、「投資先」と「市場」を探し、外貨運用先を開拓する必要性 (「経済大陸アフリカ」／平野克己氏著より抜粋)

・結果として、中国企業のアフリカ進出が進む⇒国有企業による資源権益確保のみならず、民営企業も巻き込み、多分野に拡大

# 中国のアフリカ取組みの特徴(1)

## ① 国家戦略に呼応しての戦略的取組み

- ・資源獲得、市場獲得、余剰生産能力の緩和、「一帯一路」等

## ② 国家指導者・政府高官の頻繁なアフリカ訪問～人脈構築・維持

- ・胡錦濤前国家主席(4回)、習近平国家主席(7回)
- ・外交部長、年初にアフリカ訪問(26年間連続)

## ③ 政治・経済・社会・安全保障分野の4分野における多面的取組み

- ・政治---政治家、議員、政党、地方自治体の交流等
- ・経済---資源開発、インフラ整備、通信、不動産、農業等多岐分野  
FOCAC(中国アフリカ協力フォーラム)等を通じての取組み
- ・社会---人材育成、アフリカ人奨学生招聘、病院建設、中国語等  
普及(孔子学院)等
- ・安全保障---軍のハイレベル往来促進

# 中国のアフリカ取組みの特徴(2)

## ④ 内政不干涉主義

- ・従来は国連憲章第2条「内政不干涉原則」を遵守  
⇒アフリカの政情不安は中国にとっても無視できず、スタンス変化

## ⑤ 「目に見える形」での取組みを推進

- ・インフラ整備以外にもスタジアム、劇場等の建設の支援、寄贈

中国人がくれるものは分かりやすい。

欧米人がくれるものは、目に見えない高貴な観念ばかりだ。電気も仕事もないところで、<透明性>や<グッド・ガバナンス>など、何の役にたつのだろうか。民主主義では食えないのだ。

(セルジュ・モンブリ／コンゴ共和国大統領顧問) 「アフリカを食い荒らす中国」より

## ⑥ 資源を担保にしたバーター取引を多用

## ⑦ パッケージ型提案

- ・資源開発、ダム、水力発電、鉄道、精錬所、港湾開発等、資金調達を含め、相手国政府の要請に基づきパッケージ提案

# FOCAC (Forum of China-Africa Cooperation)

中国アフリカ協力フォーラム(3年毎開催)

■ 第1回(2000年／北京)

■ 第2回(2003年／エチオピア)

■ 第3回(2006年／北京)・中国の対アフリカ援助額増加、中国企業の投資促進、AU本部ビル建設

■ 第4回(2009年／エジプト)・気候変動、科学技術、農業、衛生医療等、社会的分野等での協力

■ 第5回(2012年／北京)・3年間で200億ドルの低利融資供与、道路、港湾などインフラ整備、農業製造業、中小企業を重点的に支援 ・「実利優先」⇒「貢献へ」。 ・AUとの関係強化(アフリカ域内の平和維持協力)

■ 第6回(2015年／ヨハネスブルグ)習近平国家主席出席

・3年間で600億ドルの資金を拠出、

インフラ建設、貧困対策の実施の他にも、アフリカ側が求める「工業化支援」、「農業分野での支援」で協力を表明

2015年FOCACでの中国の支援約束

- ✓ 工業化支援(20万人の技術者育成、100億ドルの基金設立)
- ✓ 農業・食料安全保障(地域100村で灌漑)
- ✓ インフラ開発(高速道路、鉄道、港湾等)
- ✓ 投資促進(2020年に1000億ドル、3倍増)
- ✓ 貿易促進(2020年に4000億ドル、倍増)
- ✓ 金融支援(無償50億ドル、譲許的借款・輸出信用350億ドル、基金200億ドル)
- ✓ 医療保険、貧困削減、文化交流等

# 中国のアフリカ進出---問題点

## ■ アフリカ政府高官との癒着(腐敗)問題

- ・「目に見える形」での取り組みは、政権にとっての宣伝材料---癒着生じやすい

## ■ 中国人労働者使用による現地雇用への影響

- ・中国政府はこの点に配慮、現地雇用率上昇に協力

## ■ 中国人移民の急増と現地雇用への影響、犯罪など

- ・アフリカン・ドリームを夢見る多数の個人が移民、もしくは任務終了後もアフリカ居残り。成功したら、家族・親族を呼び寄せ一大勢力に
- ・不当に安価な労賃で労働者を搾取。・象牙の密輸等、犯罪に手を染める者も

## ■ インフラ案件等での納期・品質クレーム⇒徐々に改善の方向？

- ・屋根のついていない空港(ボツアナ)、冠水する道路(コンゴ民主共等)

## ■ 中国企業をターゲットにした誘拐・テロ事件、労働争議の多発

- ・エチオピア、スーダン等での反政府武装勢力の襲撃、鉱山等での労働争議

# TICADVI～中国側からの視点(1)

## ■「質の高いインフラ」について(参考消息／2016年8月27付)

- ・日本は「質の高いインフラ」による協力を表明---中国との競争を念頭
- ・基礎インフラが整っていないアフリカ諸国は数多くあり、高い技術水準は必ずしも必要でない
- ・安倍総理が何度も「質の高い」支援を強調したのは、中国とは異なる日本のイメージを揚げたかったから
- ・資金面でも中国の潤沢な資金援助のほうが魅力的であり、BRICS銀行、AIIBのアフリカ諸国の期待は高い

## ■300億ドルの支援について(北京日報／2016年8月30日付)

- ・日本は気前の良い援助を申し出たが、実際には以下の多くの問題が存在する
- ・日本政府のアフリカ支援は直接援助から官民共同による援助形態に変わってきているが、日本企業の対アフリカ投資の意欲は不足している。又、日本企業はコスト競争力に乏しい



# TICAD VI～中国側からの視点(2)

## ■ 日本のアフリカ支援について (北京日報／2016年8月30日付)

- ・日本がアフリカを援助するのは、国連安保理常任理事国入りという政治的野心を叶えるため
- ・しかし、日本経済は長年低迷しており、政府財源も限られている中、大規模なアフリカ支援を継続することは難しい
- ・又、G7である日本のアフリカ支援は、西側の影響を受けており援助供与国の国内政治とリンクされる方法は、アフリカ諸国から歓迎されない

## ■ 海洋の安全について (外務省華春瑩報道官／2016年8月29日記者会見)

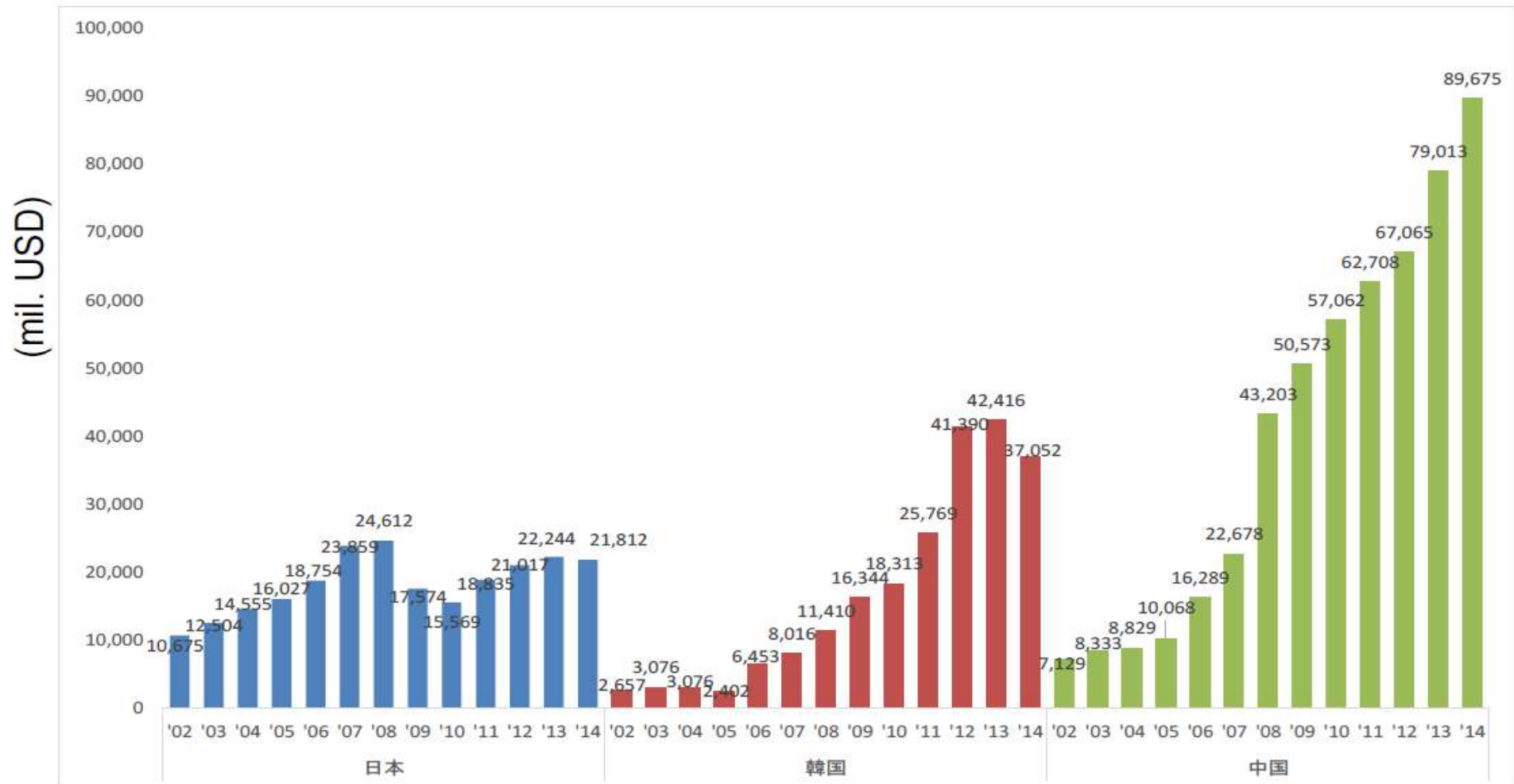
- ・日本は今回のTICADを前にして開かれた閣僚級会議で、会議の議題と文書を安保理改革と海上安全問題に向けようとし、アフリカ開発という会議のテーマから離れたことで、アフリカ側の出席者に強い不満を抱かせた

## ■ 安保理改革について (外務省華春瑩報道官／2016年8月29日記者会見)

- ・海洋に関する内容をアフリカの海上安全協力のみに抑え、安保理改革の問題については前回TICADの「横浜宣言」の原則的な表現を維持した

# 拡大する中国・韓国のインフラ輸出

## 日・中・韓の海外受注実績推移



出典: Engineering News-Record